

調査活動報告書

「ジュニアケースメソッド授業による主体性形成」

総合政策学部2年 藤村 宏哉

2012年2月15日提出

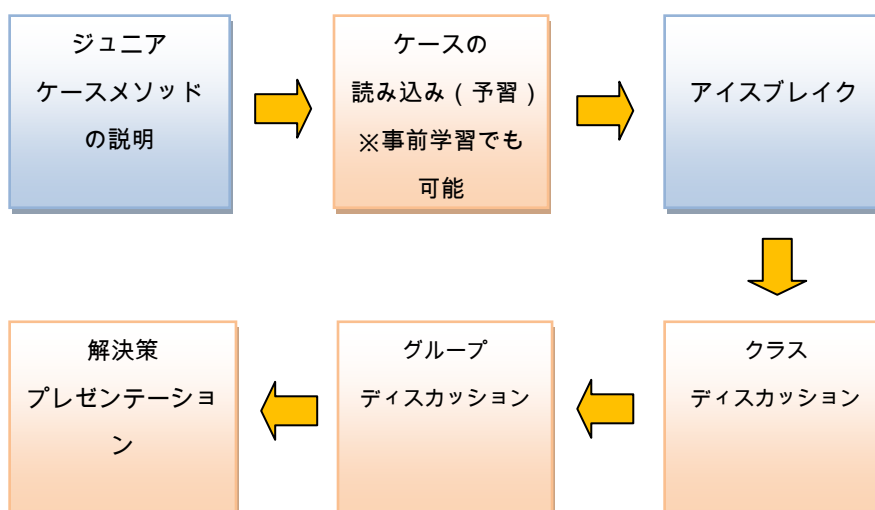
1 背景・目的

2012年2月6日、慶應義塾大学飯盛義徳研究室のプロジェクト「VITA+ (ビータプラス)」のメンバーである藤村、大久保、磯谷の3名は、鳥取県立米子南高等学校において「高校生の主体性形成」を目的とした「ジュニアケースメソッド授業」を実施した。VITA+は、2005年に飯盛義徳研究室の下、2005年4月に立ち上がったプロジェクトで、「ジュニアケースメソッド授業」を全国の高校で実施し、地域の将来を担う若者の人材育成に取り組んでいる。これまでVITA+は、佐賀県・福岡県・和歌山県・福井県・高知県・神奈川県等の地域で、約1100名の高校生・中学生を対象に「ジュニアケースメソッド授業」を実施してきた。今回、授業を実施した鳥取県立米子南高等学校は、VITA+が提供する「ジュニアケースメソッド授業」を来年度からカリキュラムの一環としての導入する事を検討しており、来年度からの本格的な導入の基盤を構築するための模擬授業の実施依頼をVITA+に頂いた事で授業実施が実現した。VITA+のメンバーは、今回の「ジュニアケースメソッド授業」実施の目的として「来年度からケースメソッドを定期的を実施していく上での基盤をつくること」「ジュニアケースメソッド授業が高校生の主体性形成を引き出す効果があると証明できるデータを取り、今後の研究に生かしていくこと」以上の2点を掲げ授業を実施した。

※<ジュニアケースメソッド授業とは？>

ジュニアケースメソッド授業とは、実際に起こった出来事を物語風にしたケース教材を元に、何が問題なのか？自分だったらどうするのか？と、参加者が主人公の疑似体験をし、ディスカッションを行う授業の事である。これまでの実践を通し、参加者のコミュニケーション能力の向上、地域への愛着や関心の芽生え、社会貢献意欲の芽生えなどの様子が見られている。

(ジュニアケースメソッド授業の流れ)



2 活動状況

日程：2012年2月16日 13:45~15:30

対象：鳥取県立米子南高等学校 1年1組の生徒38名

VITA+参加メンバー：磯谷美帆(CL)、藤村宏哉、大久保依美 ※CL=ケースリーダー

3 授業内容

今回のジュニアケースメソッド授業では、高知県の土佐道路の「プラタナス並木」を題材とした教材を使用し、生徒たちに「市民の主体性の大切さ」について考えてもらう事を通して、コミュニケーション能力、地域への愛着、生徒自身の主体性を育むような授業設計を行った。

13:45~13:55 自己紹介

13:55~14:00 アイスブレイク

14:00~14:40 クラスディスカッション

14:40~15:00 グループディスカッション

15:00~15:30 発表、フィードバック、アンケート

※クラスディスカッションの席順については、特に指定せず任意の席に着席してもらった。

※グループディスカッションの班分けについては、投資番号によってランダムな割り振りを行った。



写真：クラスディスカッションの様子

撮影：鳥取県立米子南高等学校松原教諭

4 活動記録

今回の授業では、土佐道路のプラタナス並木の抱える問題を扱ったケースを使用した。土佐道路のプラタナス並木は紅葉時には美しい姿を見せ観光客や地域住民を魅了する一方で、冬になると落ち葉が落ちて近隣住民や近隣店舗からの苦情が殺到するといった特徴をもっていた。今回のジュニアケースメソッド授業では、クラスディスカッションでプラタナス並木のもっている正負それぞれの特徴を生徒に抽出してもらった上で、最終的には高校生4、5人のグループを構成し、各グループが「今後、このプラタナス並木をどうしていけばいいか」という提案を検討し、それぞれのアイデアを模造紙にまとめて発表した。

5 結果・考察

高校生向けにケースメソッドを使った授業は全国的にも先進的な試みであり、明確な答えが存在するのが当たり前になっている高校生にとって、自分達が議論の中で答えを模索するケースメソッドは新鮮に感じる一方、慣れない点もあったようだ。しかし、自分の意見を一生懸命形にして自ら語る高校生の姿は、今後の教育におけるケースメソッドの可能性を感じさせるものだった。また、ジュニアケースメソッド授業後のアンケートによると、高校生からは、「地域の住民が自分達の地域の問題を解決していく事の大切さを感じた」「自分の地域の中でできる事を探そうと思った」という積極的な意見も寄せられていた。今後、参加した生徒の追跡調査を行いながら今回の授業の効果について検証を進めていく。